

## 第2章 復興に向けた次世代の集うサロンの可能性 —「双葉郡未来会議」フェーズ1を事例に—

### 2.1 設立の背景と経緯

双葉郡出身の50代未満で構成される「双葉郡未来会議」は2015年夏に発足した。富岡町出身で震災後いわき市在住の代表者平山勉氏による「150616\_設立趣旨」というファイル<sup>1)</sup>には以下のように示されている。

平山 勉

2015年6月16日

※案

双葉郡未来会議主旨

「はなれていてもおとなりさん」

- 1) 双葉8町村は、これまで合併しないでここまでできました。それは原発の存在が大きな理由の一つでしたが、それがこの震災からの避難によって、各町村の対応、方向性が見事にバラバラという弊害を生んだともいえます。しかし、住民レベルでいえば、元はお隣さんの集まりで、私利私欲を抜きに、集い、話し、理解し、助け合える事もたくさんある筈です。
- 2) 私たちはとなりの町村の事をどれくらい知っているだろうか？県内外に散らばってしまっても、もとはお隣の町村同士。みんな自分の事だけじゃなくて、まずはおとなりさんの実情を知り、被害の大小だけじゃなくて、それぞれの立場での難しさをまず理解しあう事から始めたい。今後の双葉郡を繋いで行く為の必要最低限の事だと思います。
- 3) これまでは自分のところだけで目一杯だったかもしれない。しかし5年目を送っている今、お隣の事も思いやる、そんな少しの余裕が欲しい。そして、一つの町村だけでは解決出来ない事も、みんなでやればできるかもしれない。双葉郡内で、民間レベルでの連携を生み出したい。
- 4) この場所で出来た繋がりや情報の共有は必ず、この先のそれぞれの町村、町村民の立て直しの役に立つ。出来る事から始めましょう。
- 5) 双葉郡未来会議での定期的会議、現地視察も行う。
- 6) ぶっちゃけ、自分の町以外の町村でも、友達を作っていきましょう！そしていざという時には助け合いましょう！というのがメインです（飲み会がメインでもかまわない）。
- 7) 基本的に地元の住民と、直接の支援に関係している方を参加条件とします。

代表者である平山氏であるが、どのような経緯でこの会議体を設立したのだろうか。2013年7月に実施した聞き取り<sup>2)</sup>からその萌芽が見て取れる。同氏は富岡町中央区2班の出身であり、いわき市内の高校を卒業後18歳から24年間を仕事などにより東京で過ごし、2009年に富岡町に戻ってきた。その後は家業であるビジネスホテルひさごを手伝いつつ、自身が経営する(有)ノーマディックレコードの運営に従事する一方で、地域の活動として消防団にも入団したり、父が組合長であった旅館業組合にも入会し、いくつかの活動・行事に参加した。ただ、

*戻ってきて時間がそこまで経ってなかったもので、色々やっていたわけではないが、活動には地元にいると自然とやるようになっていた。*

というコメントにもあるように、そこまで積極的にコミットしたわけではなかったようだ。

そして2011年3月11日は「床屋で髪を切っている時に揺れ始めた」とのことで、すみやかにホテルの状況確認を行い、13日に富岡を離れ避難生活を送るようになった。その後、

*同級生などを中心にメーリングリストを作り、安否確認などを行った。だいたい20名くらいのメーリングリストでほとんどが中学時代の同級生である。そのほかには、twitter や mixi でつながった人たちと情報交換をして、何か情報が入るたびにメーリングリストで発信した。*

というようにいわゆるICTを駆使したやりとりはこの段階で行い、更には2011年秋に「富岡インサイド」というホームページ(写真1)を立ち上げたのである。

*町の動きが鈍くて情報発信もままならなかった。他にいろんな情報をまとめたくて立ち上げにいたった。最初は自分自身も必要だとは思わなかったが、知り合いが発災当時からずっと写真とっている人がいたり、富岡の人は町の状況を気にしているだろうし、外の人には興味があるだろう、からしっかり伝えないといけないなというのをだんだん感じはじめるようになった。*

このホームページは現在でも毎日更新されている。双葉郡をめぐる動きについての「最近の関連ニュース」、とりわけ「更新情報」と称される旧警戒区域、帰還困難区域をドライブレコーダーの動画や画像でアップしており、遠くで避難している人や一般の人が立ち入れないということも含めて貴重な資料を今も提供し続けている。

平山氏は2012年秋にいわき市内にレコード事務所を再開させ、現在に至るまでいわき市内に住んでいる。



写真1 富岡インサイドのトップページ(一部加工)

その後はさほど、町の中央区関連の人たちよりは、友人・知人らとの関わりが多かったようである。

元の区の人との話などはそんなになく、友人関係で集まることが多い。半年ほど前から、「水酔会」というのを後輩と一緒に開いていて、月1回水曜日の夜に平で30~40代の人が20名ほど集まって飲み会をする。とみおか子ども未来ネットワークの藤田(大)さんと始めた。当初は5~6名だったので、1回やるたびに3~4人ずつ増えていった感じである。参加者のほとんどは自分よりも年下である。遠い人は静岡や東京からも来ているが、だいたいはいわきにいる人だ。最近では6月末に実施して、今月は24日に実施予定である。これからもどんどん人数は増えていくといいと思っている。ちなみに、ほとんどの人が知らない人で、この会で知り合ったという感じである。もともと、郡山やいわき、東京などで開いていたタウンミーティングの延長がこの「水酔会」なのだ。今は男性しかいないが、2次会になるとスナックとかに行くので、メンバーも女性を呼びたがらない。そこで、いつそのこと女性部門を作ろうか、という話もでている。しかし現実的には子育て等があって厳しいのかなと思ったりもしている。

後の未来会議での会合「飲ミーティング」の前身のような活動が2013年の段階で既に行われていたことが上記のコメントからうかがえる。こうした友人関係だけでなく、色々な

人との関わりによりネットワークが形成されつつあったようだ。

自分自身は積極的にさまざまな活動に参加しているわけではないが、いろいろ動いているとどうしても、声がかかることが多い。特に断る理由もないので、まず足を運ぶようにしている。特に自分は、仕事の関係でもともとといわきの人たちとつながりがあったので、ほかの人とは少し事情も違うと思っている。それでも、震災後の方が圧倒的にいろんな人とつながっていることは間違いない。

2013年夏当時の想いを以下のように話していた。

今は自分のやることを1つ1つやっていくしかない。あとは前向きな人たちと力を合わせていけばいいと思う。“被災者義務”、自分は、この言葉を前に話を聞きに来た人にも言った。これは、震災時どのような状況で、どういう風に避難をして、どういう風が変わっていったのかなどを記録にしておかないと、あとからわからなくなってしまう。それを残すという意味で、“被災者義務”を果たすという意味で、富岡インサイドというホームページを立ち上げて現在も活動している。

平山氏の想いは大きく二つあるだろうが、両者に通底しているのは「情報」であると考えられる。それが派生して富岡町を含む旧警戒区域とその周辺の記事や風景を今でも更新し続ける「富岡インサイド」が立ち上げられ(情報発信)、そして恐らく「前向きな人たちと力を合わせていけばいい」と考える人たちが集まる「飲みネットワーク」が発展するかたちで「双葉郡未来会議」が出来た(ネットワーク形成)のではないだろうか。

そこで「双葉郡未来会議」HPに立ち戻ろう。

「はなれていてもおとなりさん」

双葉8町村は、これまで合併しないでここまでできました。

それは原発の存在が大きな理由の一つでしたが、それがこの震災からの避難によって、各町村の対応、方向性が見事にバラバラで、住民が困惑するという弊害を生んだともいえます。

しかし、住民レベルでいえば、元はお隣さんの集まりで、私利私欲を抜きに、集い、話し、理解し、助け合える事もたくさんある筈です。

「おとなりさんは今、どうなの？」

私たちはとなりの町村の事をどれくらい知っているだろうか？

県内外に散らばってしまっても、もとはお隣の町村同士。みんな自分の事だけでなく、まずはおとなりさんの実情を知り、被害の大小だけでなく、それぞれの立場を理解

しあう事から始めたい。

「そろそろ近所付き合いも」

これまでは自分のところだけで目一杯だったかもしれない。

しかし5年目を送っている今、お隣の事も思いやる、そんな少しの余裕が欲しい。そして、一つの町村だけでは解決出来ない事も、みんなでやればできるかもしれない。

双葉郡内で、民間レベルでの連携を生み出したい。この場所で出来た繋がりや情報の共有は必ず、この先のそれぞれの町村、町村民の今後の対応、立て直しの役に立つ。出来る事から始めましょう。

「誰がくんだっぺ？」

基本的に地元の住民と、支援に直接関係している方を参加条件とします。懐かしい人に会えるかも。

「語り継ぐ為に」

ある意味世界中で注目されて、負の意味で歴史に残る双葉郡の住民として、地元の事を語れないのはハズかしい。

歴史の証人として次の世代に語り継げるように、そしてバトンを渡せるように、現状を正しく知っておきましょう。



写真2 双葉郡未来会議のトップページ(一部加工)

このように、①「はなれていてもおとなりさん」、②「おとなりさんは今、どうなの?」、③「そろそろ近所付き合いも」、④「誰がくんだっぺ?」、⑤「語り継ぐ為に」の5つを大きなテーマに設立したのである。情報発信は「今現在」(上記の②)と「今後・将来世代」(⑤)、ネットワーク形成(①③④)という、2013年当時の想いがほぼそのまま反映しているものと考えられる。まとめると、コンセプトは「知る」「見る」「繋がる」の3つ<sup>3)</sup>である。

次節では具体的にどのような活動をすすめてきたのかを、とりわけ seasonX と名づける会議を中心に振りかえることにしよう。

## 2.2 双葉郡未来会議の活動

未来会議がコアメンバーと(恐らく)称す事務局メンバーは10名程度であり、主にそのメンバーによる会合「飲みミーティング」が月1回開催されている。次頁の表1には各種資料、情報媒体から収集した現時点での活動一覧を示している<sup>4)</sup>。「第1回飲みミーティング」は2015年7月にいわき市内で開催された。HPの画像から判断するに、10名前後の参加であったようだ。第1回と称するように「まずは近況報告」が行われたようだ。

このような月1回の「飲みミーティング」の他に、各町内への視察(浪江8月、大熊10月、広野町・楡葉町12月)が行われるとともに、東京電力福島第一原子力発電所への「イチエフ視察」も複数回(第1回9月、第2回12月)が行われている。

そして2015年の最大の活動は12月5日にいわき市で開催された「双葉郡未来会議 season1 ~広野・川内・楡葉編~「解除とは何か」」であろう。

その開催に向けたいくつかの議事録から、どのような議論が交わされたのかを確認しよう。基本的には「役割分担」等の調整事項が議論の中心になるのだが、ここでは「会議の方向性」に関する記述に焦点をあてていくことにする<sup>5)</sup>。

### 9月18日

参加者 9名

<12月5日日本会について>

○本会議の目的について

#隣の街を知ることでその後どうするのか

\$ 今現在、知ることでできていない

\$ 課題解決の組織ではない

\$ この会議をきっかけに(別で)行動を起こすことは構わない

#回数を重ねていけば、最終的に行政に提案するようになるのでは

\$ 提言などは考えていない

\$ やっていくうちに見えてくるのではないか

\$ 少なくとも全ての町を勉強してみてもいいのでは

#時系列にいても川内村を5日に呼んだほうがよいのでは

- \$ 広野～川内～楢葉と解除された順序でプレゼンしては
- #県外で活躍している方の情報も入れたほうがよいのでは
- \$ 展示ができるのであれば、展示したほうがよいと思う
- \$ 時間に制約があるので、パンフレットの配布もよいと思う
- #ワークショップ形式にするのか
- \$ ワークショップにするなら事前に伝えなければならない
- \$ プレゼンターにもっと聞きたいことを聞くことができるようにしてはどうか

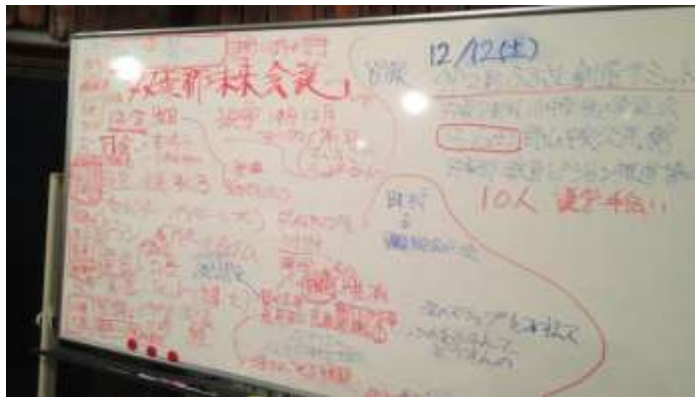


写真3 第3回飲みミーティング(HPより)

12月5日の会議に向け、方向性をメンバーで模索していることがうかがえる(写真3)。

大きい問題としては「隣の街を知ることによってその後どうするのか」であろうか。それについて「回数を重ねていけば、最終的に行政に提案するようになるのでは」という意見が出たものの「提言などは考えていない」という発言もあり、この段階では「少なくとも全ての町を勉強してみたらいいのでは」という方向に落ち着いているように見える。先にもあった「課題解決の組織ではない」の発言は恐らくこの会議体を「運動」にはしたくないという想いがあるのではなかろうか。ただ、その想いをメンバー全体に拘束するつもりがないのは「この会議をきっかけに(別で)行動を起こすことは構わない」にあらわれている。パットナム流に言えば、この会議体というネットワークはあくまでも **bridging** の性質を持つものであり、**bonding** のそれが中心ではないのだろう。

この会議体の趣旨がよくあらわしているのは以下の議事録であろうか。

### 10月21日

参加者8名

1. 前回の続き(本会議について未決定事項などの確認)
  - 1) プレゼンター

- 2) パネリスト
  - 3) 役割分担
  - 4) 展示物
    - あ) 借用関係
    - い) 配置
  - 5) その他
2. 連絡事項

の「1. 5) その他」で以下の記述が残されていた。抜粋して見てみよう。

え) だらだらタイム

☆ 会議終了後に展示品を見ながらでもいろんな方と話す時間を多く取りたい

か) メディア

☆ テレビ・・・全ヤメです。

新聞・・・原則、Netまで(欲を言えば、原稿を確認したい)

各自治体・・・OKです。

個人・・・OKです。

とりわけ「か) メディア」について、傍証になるが以下の記述<sup>6)</sup>はその意図を明確に示しているのではなかろうか。

「メディアお断り」、特にテレビ取材は断る、という方針はマスメディアのステレオタイプに左右されず、顔の見える関係を着実に育てることにつながります。嫉妬や炎上といったトラブルのリスクも低くなるでしょう。

無責任なマスコミなどによる、いわゆる「フクシマ」報道が多くなされるなか、恐らく平山氏の「被災者義務」がこうした対応にあらわれているのではないかと。

そして12月5日の「season1」である(写真4)。当日は以下のような次第であった<sup>7)</sup>。

#### 双葉郡未来会議 season 1

～広野・川内・楢葉編～

- 1. 日時 2015年12月5日(土) 12:00開場/13:00～17:00
- 2. 場所 いわき市産業創造館 企画展示ホール
- 3. 参加費 無料
- 4. 当日プログラム
  - 12:00 開場 13:00 開会
  - 13:10 双葉郡の現状おさらい



- 13:20 現状報告 ～避難解除とは何か～  
① 広野町 遠藤 浩 氏  
② 川内村 井出健人 氏  
③ 檜葉町 鈴木教弘 氏
- 14:30 休憩
- 14:45 パネルディスカッション／質疑応答  
パネリスト 現状報告者の3名  
ファシリテーター 梅村武之 氏 (未来会議)
- 15:30 参加者交流会
- 17:00 閉会



写真4 双葉郡未来会議 season 1 (HPより)

同 HP の「双葉郡未来会議 season1 ～広野・川内・檜葉編」開催レポートによると、以下の記載があった。

本会議終了後、参加者の皆さんへのアンケートでは「避難指示が解除された地域の現状が知りたくて参加。今後、避難が解除される町として、参考になった」「双葉郡のことに関わりたい気持ちがありつつ、一步を踏み出せずにいたので、いいきっかけだと感じて参加した。今後も参加したい」との声を頂きました。また、「参加者が聞くだけでなく、対話する機会があると良かった」といった意見も多く聞かれました。つながりが生まれることへの期待を強く感じました。

広域・長期避難によりバラバラになっていた双葉郡の住民たちは、本会議に参加することで情報共有から問題意識を再認識することができ、それをもとにした「テーマ型コミュニティ／ネットワーク」の萌芽がみえつつあることが「つながりが生まれることへの期待を強く感じました」という記述につながっているのではなかろうか。

表1 双葉郡未来会議の活動経緯<sup>①</sup>

年	月	場所	タイトル	概要	会合	行事	視察
2015年	7月	いわき市夜明け市場	第1回飲み会	この日初めて双葉8町村のメンバーが揃い、現況や今後に向けて熱く色んな事を話し合いました。	○		
		浪江町内	浪江町帰還困難区域大堀地区視察				○
	9月	東京電力福島第一原子力発電所	第1回イチエフ視察	東京電力と交渉し、地元住民にもイチエフの現状を視察する機会を作りました。AFWの吉川彰浩氏を招いての勉強会も開催。勉強会も定期的に行っていければと思います。	○		○
		Music bar burrws	第3回飲み会	12月5日本会議にむけて、コアメンバーによるかなり具体的な議論、提案となりました。	○		
	10月	大熊町内	現地視察／大熊町	福島第一原発をかかえ、事故以来全長避難が続く町の現在の姿を視察。大熊町の主要施設をくまなくまわりました。定員15名。			○
		Music bar burrws	第4回飲み会	12月5日本会議に向けて具体的な話しが煮詰まってきました。当初からかなり変更点がでてきて、より良い方向に向かっていきます。	○		
	11月	Music bar burrws	第5回飲み会	当初の予定よりグッと人増えて、12/5本会の人の動き、モノの動きを確認。	○		
	12月	広野町、楡葉町内	広野町、楡葉町視察				○
		東京電力福島第一原子力発電所	第2回イチエフ視察				○
		いわき市産業創造館	双葉郡未来会議 season1 ～広野・川内・楡葉編～「解除とは何か」	120名以上が参加。広野町・川内村・楡葉町3町村にスポットライトを当て、震災・原発事故後の経過と現状に迫った。		○	
		いわき市内	飲み会	12/5の振り返り、今後の改善点など。	○		
	2016年	1月	富岡町内	富岡町全域視察			
Caffe W23(郡山市)			第7回飲み会 in 郡山	3/19企画について、参加者は15名。	○		
2月		浪江町内	浪江町全域視察				○
			飲み会	3/19企画について。	○		
			飲み会	3/19企画について、参加者は11名。	○		
3月		広野町内	現地視察／広野町				○
		Music bar burrws	第9回飲み会 in いわき	ふるさと未来創造会議との関わり確認等。参加者7名。	○		
		郡山市民文化センター	双葉郡未来会議 season2 ～葛尾・富岡・浪江編～「旧警戒区域の夜明け」	約150名が参加。避難解除が予定されている葛尾村と富岡町、浪江町の現状報告が今回のメイン。		○	
5月		東京電力福島第一原子力発電所	第3回イチエフ視察				○
		TATAKIAGE Japan コワーキングスペース	第11回飲み会	6月25日本会議に向けた役割分担などの決定。	○		
6月			飲み会	6月25日本会議の最終調整、視察、Season4など。	○		
		東京電力福島第一原子力発電所	第4回イチエフ視察				○
7月			双葉郡未来会議 season3 ～大熊・双葉編～	100人超が参加、前回・前々回と比べて若い世代の参加者が多かった。テーマは「半世紀後のバトン」。		○	
			飲み会	Season3振り返り、Season4以降の活動について。	○		
8月		葛尾町内	現地視察／葛尾村	『ふるさと未来創造会議』と合同で開催。			○
9月		いわき市内	双葉郡未来会議 season4 ～離れても出来ること～	事務局局内限定で開催。高校・大学生ら含む18名参加。ファンリテーター田坂氏による議論が行われた。	○		
10月		J-VILLAGE内	双葉郡未来会議 season 5 / 特集！ J-VILLAGE	震災後、イチエフの事故収束の前線基地となったサッカーの聖地J-VILLAGE。その対応はどういうものだったのか？そして現在は？これからは？を知るためのシンポジウム。J-Village内の視察も。当日は地元、および県内外から約60名が参加。		○	
11月		広野町公民館	双葉郡未来会議 season6 ～8町村だヨ！全員集合～「もしも協働を探ったら」	双葉8町村の住民が、新しい繋がりを構築し、共に歩むための寄り合いとしてスタートした双葉郡未来会議の、一区切りとなる集大成。町村の壁を超え、民間でできることを突き詰めて、新しい対話の場を探る。同時に双葉郡女子会、ユース会(中高大学生～当時学生まで)を発足。		○	
		Kik' b 23(まざっせプラザ)	双葉郡未来会議ユースの交流会	第一回は郡山で開催。対象は双葉郡出身の中高大学生～26歳まで。	○		
12月		ニューちゃいな(郡山市)	双葉郡未来会議ユース忘年会	双葉郡未来会議では双葉郡出身、またはに在住していた、当時大学生までの若者を中心とした会議体。	○		
2017年	1月	かどや	第16回飲み会	15名参加。会の名称変更、基本路線の共有。	○		
	2月	TATAKIAGE Japan コワーキングスペース	事務局飲み会	富岡スタートアップセミナー、解除後の動きなど。	○		
さくらモールとみおか		福島12市町村スタートアップセミナー～浜魂(ハマコン) in 富岡～	双葉郡未来会議協力イベント。		○		

このように season1 は約 120 名の参加者もあり、ひとまずは成功に終わったのではなかろうか。そうしたなかで 12 月 22 日に「飲ミーティング」がいわき市内で行われた。振り返りに関する記述をみていこう。

## 12月22日

### 1. 連絡事項

### 2. 12/5の振り返り

#交流会部分は工夫が必要。旧来の知人同士で話し合ってた終わっていた人が多かった。

#交流会部分、残りにくかったと聞いた。話しにくかった。

#3人の話を踏まえた話をする時間も欲しかった。

### 3. 振り返りまとめ・今後の改善点

#### メディア対応

☆受付時点で一般・予約・報道と分けて報道は腕章してもらおう。

#### 質疑のタイミング

☆プレゼン後すぐに一度設ける。熱く記憶も鮮明なうちに行う。

交流会の部分の課題が残ったようだ。いわゆる bridging 型のつながりをつくるためには「旧来の知人同士」だけでの話や「残りにくい」のではその形成が難しくなり、そもそも「3人の話を踏まえた話をする時間」が少なければ共有する問題意識→テーマへとたどり着くのであり、そのあたりを次回以降どうするかという問題が顕現した点でも本会議の大きな意義があったのではなかろうか。

2016年には郡山市で「第7回飲ミーティング」を開催した。議事録の一部を紹介しよう。

## 1月25日

参加者 15名

主題：3/19 企画について

### ■ 合意事項

- ・現状説明・プレゼン・パネルディスカッションの手法は前回と同じ。
- ・交流会部分、8町村ブースに地元の人を配置し、ガイド3~4人がスタッフTシャツを着て初参加者・希望者に会場内を案内しツアーする
- ・TVはなし。
- ・広報（行政）、HP・FB。紙媒体では実施しない。

### ■ ネクストステップ

- ・ファシリテーターの人選案をつくる。
- ・8町村の団体を調べる。
- ・ガイド役を募集し勉強会を企画する。

### ■ メモ（上記以外）

- ・交流会  
→案: グループ分けでの順繰り回り。グループ毎での会場巡りツアー。スタンプラリー。分科会。8町村の団体の展示には団体の人も配置。
- ・展示  
→案: テーマ町村は大きいブースにして大きく特集。砕けた内容のパネルも展示。
- ・他  
→案: ユニフォームを作る (ex: Tシャツ)。ガイド育成。協賛集める。

この会合では役割分担の決定が主であったと推察される。一つあるのは「ガイド役を募集」であろうか。2月1日は4名だけで会議が開かれている。主だったものについてみていこう。

## 2月1日

参加者4名

主題: 3/19企画について

- 合意事項
- ネクストステップ
- メモ (上記以外)

- ・協賛  
→まずはなるべく双葉郡で集めたい。  
→ある程度のネットワークを持った団体を入れる。各地域・分野になっている団体に依頼する。
- ・事前広報  
→自治会や当事者団体に声かけ (母親グループ・学生グループ等)。
- ・交流会部分  
→初参加者への配慮を考える。立場で集める等。例: 学生だけグループ、お母さんグループ、役場職員グループ。
- ・後日分科会  
→学生グループ、お母さんグループ等で。
- ・分科会案  
→双葉郡に原発ができるに至った歴史を勉強する会 (歴史部会)。
- ・今後  
→2016年9月以降は分科会メインに切り替えていく。  
→年4回本会議ペースを年4回分科会ペースに切り替える等。  
→分科会サミット開催。1年の活動を報告し合う。

こうした活動で大きな問題になるのは「資金」である。「基本は自主財源」<sup>10)</sup>ですすめているが、今後の展開をより発展的にしていくためにはより一層の資金が必要である。そのため



「双葉郡」となるとどうしても放射能、避難→原発事故→原発→東電・国、といったことが取りあげられるのは仕方のない部分であるが、あくまでも「未来を語る」のが本会の趣旨であることをここであらためて確認したのだろう。

3月19日の season2 直前となる3月8日「第9回飲みミーティング in いわき」には18名が出席し、最後の確認を行った。

2016年3月19日に開催した「双葉郡未来会議 season2 ～葛尾・富岡・浪江編～」は郡山市で開催し、約150名が参加した。今回は避難解除が予定される葛尾村、富岡町、浪江町の現状報告を主に扱っている(写真5)。

3町村の報告の後、先に言及した「ふるさと未来創造会議」による活動報告があり、それらをふまえたパネルディスカッションが行われた<sup>12)</sup>。

そして次は6月25日の本会議である。その準備会として「第11回飲みミーティング」が5月24日に「TATAKIAGE Japan コワーキングスペース」で行われた。

## 5月24日

参加者8名

1. 0625 本会議までの準備スケジュールについて
2. 0625 本会議当日のスケジュールと役割分担について
3. 0625 本会議に使用する備品について
4. 0625 本会議の交流タイムについて
  - ・報告者4名と、特に繋がってほしい。報告者4人が展示ブースに張り付く
  - ・司会から参加者に、展示ブースを回るようにアナウンスを入れる
  - ・スタッフも全員参加しよう
5. 冊子と広報について
  - ・広報のターゲットはあくまで双葉郡の住民
    - 事務局メンバーは個別メッセで知り合いを一本釣りするべし
    - 目標は事務局の人がひとりずつ知り合いを連れてくること
  - ・役場 HP でイベント情報をシェアしてもらう
6. 0621 イチエフ視察について
7. その他
  - 次回以降の本会議について
    - ・第4回目の本会議は朝生スタイルでやりたい
    - ・OST (オープンスペース・テクノロジー) (ワークショップの手法のひとつ)を取り入れてみたい

ここでも「広報のターゲットはあくまで双葉郡の住民」を徹底している。あと注目すべきは、活動報告やパネルディスカッションでは一方向的になってしまうことから、「第4回目の本会議は朝生スタイルでやりたい」という提案があった点である。OSTを取り入れること

などの意見も出ていたようだ。

直前となる6月16日に最終調整のミーティングが開催された。

## 6月16日

参加者13名

### ■ 議題

- ・0625 当日について
- ・0625 準備について
- ・1022J ヴィレッジ企画について
- ・葛尾村視察について
- ・season4 について
- ・903 企画について

### ■ 合意事項

- ◇625 企画
  - ◇葛尾村視察
    - ・7月30日。浪江JCと合同で。日帰り
  - ◇season4
    - ・11月12日に開催で日時仮決定
  - ◇0903 企画
    - ・田坂さん招いての会を開催。625の懇親会の場でMTGします

### ■ ネクストステップ

- ◇625 企画
- ◇J ヴィレッジ企画
- ◇葛尾村視察
- ◇season4
  - ・開催場所を浪江か富岡か檜葉か広野で探す。候補は、檜葉コミセン、檜葉中学校、広野町体育館、浪江スポーツセンター、浪江役場、ホテルひさご、エネカン、J ヴィレッジ、ふたば未来学園高校
  - ・日時と双葉郡内で開催の旨をseason3で告知する

### ■ メモ（上記以外）

- ◇625 企画
  - ・今日時点での参加申込、メール10名+FB60名で計70名
  - ・当日事務局は20名が手伝い予定
  - ・東電は5~8名が手伝い
- ◇J ヴィレッジ企画
  - ・参加者100名規模でJ ヴィレッジ内の会場で
  - ・駐車場係に5名ほど事務局から必要

◇その他

・ふたばワールドは10月2日

ほぼ最終確認であったが、おさえておく点としては「東電は5~8名が手伝い」に来るといこと、season4を浪江、富岡、楡葉、広野のいずれかで開催する方向で調整することであろうか。



双葉郡未来会議とは震災以降、パラパラになった双葉郡8町村の住民同士が繋がり、情報や問題を共有し考慮に役立てる、民間レベルの寄り合いです。

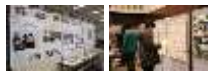
6.25 SAT 本日のプログラム

12:00	開場 開会の挨拶
13:00	双葉郡全体の現状おさらい
13:20	双葉町現状報告 松枝 智之さん(双葉町) 斎藤 新一さん(双葉町)
14:00	休憩
14:10	大熊町現状報告 秋本 浩宏さん(大熊町) 木村 紀夫さん(大熊町)
14:50	休憩
15:00	パネルディスカッション 富田 浩一さん
15:30	代表挨拶
16:00	フリータイム
17:00	閉場

司会  
近野悟史(浪江町)  
牛久米英佳(浪江町)

POFアシリテーター  
藤田 大(富岡町)

フリータイムは、現状報告者を含む双葉郡8町村出身者が優先ブースで待機しています。  
展示物をゆっくり観覧するもよし、参加者同士で交流を深める時間にするもよし、17時まで自由にお楽しみください。



会場後方と受付ホールには、展示ブースを設けています。双葉郡8町村のほか、双葉警察署、双葉消防本部、東京電力ホールディングス株式会社福島復興本部に展示のご協力をお願いしております。

主催 双葉郡未来会議事務局  
公式HP <http://futabafuture.com/> Facebook <https://www.facebook.com/futabafuturemeeting/>  
Twitter <https://twitter.com/futabameeting>

ご寄付のおねがい  
双葉郡未来会議は、双葉郡地域の繋がりと協力による地力発掘を目指しています。活動に賛同いただける地区の方及び関係者の方からのご寄付を募集しております。お預かりしたご寄付はイベントの開催・広報物の発行に活用させていただきます。  
一口：一万円(個人最大3口、団体最大5口まで) 口座：福島銀行 平塚支店 1058682 双葉郡未来会議



写真6 双葉郡未来会議 season3 のプログラムと風景 (提供資料とHPより)

今回は「双葉郡未来会議」HPによれば、100名超が参加し、第1回・第2回と比べても若い人たちの参加が多かったとのことである。趣旨は以下の通りである。

テーマは「半世紀後へのバトン」。原子炉の廃炉にかかる時間は少なくとも40年と言われていています。果たして私たちがその時を見届けることができるかはわかりません。だからこそ、今を生きる私たちが、私たちの子供に、私たちのまちに「何を残せるのか」を考える時間になりたいとの思いから、このようなテーマを設けました。

このようにあくまでも「前向きに、未来志向」が徹底されているとともに、先にも取りあ



げた「広報のターゲットはあくまで双葉郡の住民」という点で、ややもすると会議や組織維持のために「その他もろもろ」を巻き込みがちになるのであるが、この時点でもその懸念は見られていない。

さて、翌月に行われた振り返りの会議が7月14日に行われた。議事録（必要に応じて抜粋）をふりかえってみよう。

## 7月14日

参加者14名

### ■ season3 振り返り

◎メモ（上記以外）

#### 【アンケート共有】

→広域連携をどう広げるか

→若い人が来たときに手伝ってもらえる受け皿を。ボランティアスタッフとして参加してもらえたら。周りに若い人いたら巻きこもう！

#### 【ふりかえり】

→年配の人も来ていたが接点なく交わらなかった。年配の人にも交わってもらえる打ち手があると良い

→2回目の方が参加者多かったが、外部の人が多かったため。3回目は双葉郡出身者が4割。前回よりも双葉郡出身者は増えた。参加者のリピート率6割

→内輪という指摘がアンケートにあるが、参加者全員内輪にするぐらいで良いのでは

### ■ season4 について

◎ネクストステップ

#### 【参加者】

→一回は来たことがある、想いのある人に来てもらえるよう、呼びかけ

→役場にも声かけする

### ■ season5 について

◎合意事項

#### 【来賓】

→8町村・東電復興本社・県知事に声かける

◎メモ（上記以外）

#### 【J ヴィレッジで何したい？】

→当時の話を聞きたい

### ■ season6 について

◎ネクストステップ

→次回までに8町村ゲストの出席確認

### ■ 葛尾村視察について

◎合意事項

→事務局外には広報しない

■ 冊子記録について

◎ネクストステップ

→**相関図**の案を作る

◎メモ(上記以外)

→**双葉郡未来会議**のメンバーの広がり**の相関図**を描いてもいいかも

→成果をまとめて世の中に出せることに意義があるかも

■ 会計について

◎ネクストステップ

→**season6**までに協賛金を集める

これまで season1~3 まで一通りやってきたのであるが、そこから「広域連携をどう広げるか」という今後の展開していくなかで乗り越えなければならない課題があらためてメンバーで共有されたことがまず一つ目の点ではないだろうか。もうひとつの課題は「年配の人も来ていたが接点なく交わらなかった」ことにある。今後、帰還などが本格化していくにつれて地域で重要な位置を占める区会・町内会・自治会といった住民組織との連携が求められるだろう。それらを束ねる年代はまだ「若くても」60代、中心となるのは70代である。その年代の取り込みと巻き込みへの課題が認識されたと上記のコメントから推察できる。

参加者数は2回目の方が多かったようだが、今回は双葉郡出身者が多いこととリピート率が6割だったことは、本会議がこれまで続けてきた活動への認知と関心が高まっていることを示している結果なのかもしれない。因みに season4 以降の大きなコンセプトやテーマに関する議論はなされていなかったようだ。

この後の活動として<sup>13)</sup>、10月22日に「双葉郡未来会議 season 5 /特集! J-VILLAGE」が J-VILLAGE コンベンションホールで開催され、約60名の参加があった。Season5のテーマは以下のようにHPに記されている。

我々地元の間が、震災前から親しんできた J-VILLAGE が、なんとなく震災後、東京電力が借りあげ、イチエフの事故収束の前線基地となっていたことは知ってても、それが実際にどういう動きだったのか、そして今は、これからどうなるのかを、正確には知らないのではないか、という思いで、2017年に東電から県に返還される前に、その一部始終を検証して、知っておこうというところです。

2015年9月5日に檜葉町が避難指示解除となり、富岡町の翌春の解除が現実味を増していくなかで、J ヴィレッジ返還前に一度「J ヴィレッジはどんな役割を果たしたのだろうか」を学ぶという意味合いが込められていた。

登壇者は上田栄治氏（J ヴィレッジ代表取締役副社長）、石崎芳行氏（東京電力ホールディングス（株）福島復興本社代表）、西芳照氏（（株）DREAM24 代表／サムライブルーの料理人）の3名であった。

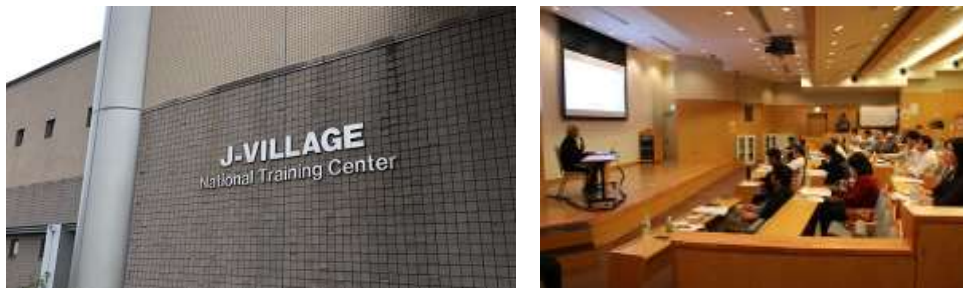


写真7 双葉郡未来会議 season5 の風景（HP より）

ここで注目すべきはHPでの以下のコメントである。

この日の登壇者3名が話してくれたことに共通するのは、苦難の時期を乗り越え、再生にむかって動き出したJ-VILLAGEが、今後の地域再生、または復興のシンボルであり、それを大きく牽引するという事です。上田さんのお話の中ででてきた新生J-VILLAGEの5つの使命が全てを物語っています。スポーツを通して現状を発信するという事は、我々が単純に発信する以上に、より多くの人の元に伝えることができるのです。

これを県外のメディアはどう考えるか。とりわけ震災後、電力事業者は国と並んでバッシングの対象であり、「原発事故で避難した多くの方が苦しい生活をして、それを強いた国や東電を恨んでいる」というあらかじめ決められたストーリーをそれこそ彼ら／彼女らに今でも「強いている」のは（とりわけ県外の）メディアではないか。ここでも「当日、テレビ局の取材はおことわりします」「ゲストへの個別取材は必ず、事前に事務局を通して下さい」という姿勢は変わっていない。

そしてこれまでの集大成として11月12日に「双葉郡未来会議 season6 ～八町村だヨ！ 全員集合～「もしも協働を探ったら」」が双葉郡内初となる広野町公民館で開催された。HPによれば、

双葉8町村の住民が、新しい繋がりを構築し、共に歩むための寄り合いとしてスタートした双葉郡未来会議の、一区切りとなる集大成。もしも協働を探ったら、どんなことができるようになるのか。町村の壁を超え、民間でできることを突き詰めて、新しい対話の場を探っていく。

とあり、8町村の(比較的)若い世代によるディスカッションが行われたようだ。

これまで双葉郡未来会議の主な活動である season1 から season6 を中心としつつ、議事録などの資料から概観してきた。次節では 2016 年末から「若者の取り込み」をはじめとしたいくつかの新たな動きが出てきており、それらを確認するとともに未来会議の課題も検討することとしよう。

## 2.3 サロンは可能か—Season1 から Season6 をふりかえって—

2016 年末には双葉郡出身の中高大学生を対象とした「双葉郡未来会議ユースの交流会」が 11 月 17 日に郡山で開催、続けて 12 月 27 日にも「ユース忘年会」が同じく郡山市で開催され、学生世代の取り込みを試みている。

翌 2017 年 1 月 17 日には「第 16 回飲ミーティング」がいわき市内で開催された。ここでは今後の活動としていくつかのプロジェクトが提示された。

### 1月17日

参加者 15 名

#### 1. 飲ミーティングの名称変更

- ・若い子たちが来やすいようにする
- ・おちゃらけても可、堅くする必要はない
- ・単純に双葉郡 MTG ではどうか
- ・ふたばみらい MTG にしよう、平仮名で柔らかさがあるので女性にもうけるだろう

#### 2. 今年の予定

- ・基本路線としては、つながりを増やしていくというものを変えずにいく

##### (1) 検証と発信—イベント

- ・今までのイベント規模を 100 人級から 50 人級に縮小し、より専門分野に特化して、これまで以上に突っ込んだ議論をする
- ・専門分科会を中心に行う。現在、牛、病院関係には声をかけ始めている

##### (2) 検証と発信—新たな取り組み

- ・検証インタビューを 100 名に行う
- ・人数を確保するために、各人の家族の避難関係のものをまとめる
- ・両親から始めることで、意外と知らなかったことなども見えてくるし、家族の絆を見直すきっかけにもなるだろう
- ・ユース会とも連携していきたい

##### (3) 視察

###### ①3/5 浪江視察

- ・日程は 3 月 5 日で決定した

- ・実行部隊としてはユース会を考えている

②4/8~9 富岡視察

- ・富岡の祭りにぶつける予定である
- ・桜も見て回れるようにしたい
- ・浪江視察と同様、ユース会を中心に考えている

(4) ユース会の活動

- ・現在12名で少しずつ動き出している
- ・女子会もこれから立ち上げようと思う
- ・ユース会忘年会で、これまでの取りまとめと、今後の方向性のまとめを行う話が出た。シンプルにまとめる

(5) 部活

- ・“遊び”の部分として、山部や海部などを立ち上げてはどうか
- ・釣り部はどうか。  
→港が平成30年をめどに整備が終わるが、できれば船を出してやりたい

(6) その他祭り

- ・季節によって、芋煮会などのイベントを実施したい

3. プロジェクト

(1) ふたば市民活動サポートセンター

- ・未来会議からスタートして独立して、その部会が徐々に独立するような形でもよい  
→部会の位置づけはどうか？  
→現状では、未来会議のメインでやることから外れるから、部会を立ち上げるのであれば諸々の線引きを決めてからのほうがよい  
→とりあえずは、未来会議とは別に動く。その後どうしていくかは要検討事項とする
- ・センターの名前をみんなから募集したい

(2) ふたばコミュニティ放送立ち上げ

- ・新しいコミュニティFM立ち上げに向けて、情報収集中
- ・場合によっては、福島FMの枠を買い取ってやってもいいかと考えている

(3) ふたばインフォメーションセンター創設

- ・民間でやれば、物販もできるので良い
- ・展示物などを用意して、情報発信拠点とする。イメージとしては道の駅のようなものである
- ・別な場所にプレハブをリースすることでやるのであれば、未来会議やサポセンへの拠出も富プロなどやその他助成としてできるかもしれない。C.f.心のつながり事業対象？

4. その他

(1) タタキアゲジャパンとの連携

(2) 告知

5. 決定事項など

- ・飲ミーティングは次回より「ふたばみらいMTG」に名称変更する
- ・双葉郡未来会議の基本路線はかえず「つながりの創出」を推進する
- ・イベント関連は縮小しながら、専門性を高めたより深い議論を行っていく
- ・100人インタビューを検証の一環として行う
- ・視察は浪江(3/5)、富岡(4/8~9)で実施し、ユース会が中心となる
- ・これまでの活動の取りまとめと今後の方向性を簡潔にまとめる。
- ・サポートセンターについては、どのような連携の仕方をするかは要検討する
- ・コミュニティFMについては、今後の展開を模索する
- ・インフォメーションセンターについては、どのような形で立ち上げるかを検討していく

続けて2月16日開催されたミーティングの議事を見てもみよう。

2月16日

参加者10名

- ・シーズン7について(動物の会、5月ぐらい)(共有)
- ・八町村視察双葉郡6月(共有)
- ・コミュニティー放送(共有)
- ・インタビュー(家族インタビューもしていく、震災前の)(共有、議論)
- ・来月のミーティングの日程
- ・解除の動きの共有

1. 富岡スタートアップセミナーについて

■ 詳細

- ・浜コンではアクションしたい人の発掘と育成を行ってきた
- ・浜コンでは浜通りのやりたいことがある人がプレゼンをしてみんなでアイデアをだして応援する
- ・今回双葉郡未来会議にも協力をお願いしている
- ・経産省ではいわきでの開催の提案であったが、富岡のさくらモールでの開催

■ 質問

- ・浪江の人たちだけで似たような企画がある。今後コラボしたい
- ・宣伝はあるか?  
→これは双葉郡未来会議で取りまとめる
- ・川内村の盛り上げっかは告知できるか?  
→可能

2. 浪江視察に関して

■ 詳細

- ・参加申込みは現在17人
- ・双葉事務局内のみの募集

3. 解除の動きの共有

■ 浪江

- ・3月31日解除予定
- ・浪江ではイベントをやる予定はない
- ・解除のみで、帰町宣言はない
- ・民間ではあるかもしれない

■ 富岡

- ・4月1日解除予定
- ・双葉郡未来会議主導でカウントダウンのイベントを
- ・テレビ取材してもらえれば全国の町民にも知ってもらえるが、取材対応は？

4. インフォメーションセンター

■ 共有

- ・資金繰りを2名のメンバーが行っている
- ・働きたい人を募集中
- ・4月には開設したい

5. 市民活動サポートセンター

■ 共有

- ・助成金探す
- ・資金は行政と組めないか動いている

6. コミュニティーFM

■ 共有

- ・今度福島FMの社長と話してくる

7. 100人インタビューをやろう

■ 共有

- ・まずは家族からインタビュー
- ・インタビュー項目のスレットをつくってみんなにインタビュー項目を募集
- ・アンケートも共有する

8. 双葉町視察について

■ 共有

- ・2017年6月に開催予定

9. 双葉郡未来会議シーズン7

■ 共有

- ・テーマは「動物」

・これからは知って検証して発信しよう

## 10. 次回ミーティング

### ■ 決定事項

・3月17日にいわきで開催

2017年春に帰還困難区域以外は原則として避難指示が解除になる予定であり、それともない双葉郡を取り巻く環境が大きく変わる可能性がある。そうしたことも受けて議論がかなり「具体的な」事業展開への意見交換を交わしたことがわかる。

さしあたり、未来会議の基本路線は「つながりを増やす」とこれまでと変わらずに進めていくなかで、12名ほどが関与しているユース会を視察やイベントなどでの実働部隊になってもらい、イベントをより専門特化したかたちで開催するなど、会議体を立ち上げて3年目をむかえるにあたり大きく展開していこうとしている。「前向き」という意味では、ある程度のテーマやビジョンが共有されたとして、今後は「具現化」ということだろうか。そうしたとらえ方をすれば、「部活」もボランティアで成り立っている会議体であり、その持続可能性を考えると(飲み以外の)「遊び」の部分も必要という認識に至るのは必然といえる。

これらのなかで最も大きい議題は「3つのプロジェクト」であろう。会議体の3本柱である「知る」「見る」「つながる」をいずれも事業として具体化したものといえ、この回ではその実現可能性の模索がはじまろうとしている。

もう一つあげるとすればそれは「100人インタビュー」であろう。今回の東日本大震災による「復旧・復興検証」が国・自治体主導で進められつつあるなかで、こうしたボランティア組織が中心となった検証は特筆すべきことだといえる。逆にいえば、ようやく「検証」という「次のフェーズ」に移る段になったというのが、2017年という震災から6年目の「今」であり、7年目に突入しようとする「これから」なのかもしれない。

さて、本節のタイトルである「サロンは可能か」を考えていこう。家でも学校・職場でもないサロンのような場所を「サードプレイス」(オルデンバーグ)と称されるが、この「双葉郡未来会議」はどうだろうか。未来会議「以前」の「水酔会」はそうしたサロンのような性質を帯びていたと考えられよう。出身地である避難元でなく、定住先といった避難地でもなく、避難者というくくりだけで集まった、開催場所はどこでもよいという意味で第三の場所としての「サードプレイス」とおおよそ(ほぼ)利害関係にない(と思われる)ネットワークの表象の一つとして「サロン」がたちあrawれているといえないだろうか。そのように考えると、season1からseason6までのいわゆる「未来会議・フェーズ1」は、議事録などを確認した限りでは「水酔会」の延長線上にあり、サロンのようなものが形成されていたものと現時点では考えられる。

しかしながら2017年以降、ここで我々のいう「フェーズ2」はその性質を異にするものになっていくのだろうか。一つはこれまではヴァーチャルな組織体であった未来会議が、プロジェクトという(半)定常的な組織が必要なものをはじめようとしているのである。ヴァ



一チャルな組織体が事業を発展させる際にはリアルな組織が必要になってくるのだが、それだけ様々な（負の側面を持つ）つながりも生じてくる。この点は今後の関係者への詳細な聞き取りが求められるが、本来の未来会議の性格とどう整合性をとっていくのが筆者の考える「未来会議」の課題ではなかろうか。

## 付記

本稿は双葉郡未来会議事務局による資料提供なくしては成立し得ないものであった。深く御礼申し上げます。

## 注

- 1) 「双葉郡未来会議」提供資料より筆者が一部加筆を加えている。以下では、本稿執筆時点（2017年3月3日）で提供された資料、未来会議HP、Facebook、Twitterから得られた情報をもとに記述していることを予めお断りしたい。
- 2) 2013年7月18日にいわき市内で菅野が聞き取りを行い、以下の発言内容は菅野がまとめ、松本の責任の下で編集したものである。ヒアリングメモ全文は『平成25年度科研費報告書』を参照されたいが、本稿では執筆のために誤字脱字などの修正を加えている。
- 3) 双葉郡未来会議（2016）より。
- 4) 従って全てを網羅しているわけではないことをお断りしたい。今後、関係者への聞き取りをすすめていきたい。
- 5) 文中に出てくる表記について、「☆：決定事項、@：確認事項・未確認事項、#：当会議における主な発言および意見」である。
- 6) JCN（2016）の「現場からのインタビュー 協力：双葉郡未来会議／平山勉さん」にある「ネットワークがうまくいく」秘訣は何？」から引用。
- 7) 写真、次第いずれも「双葉郡未来会議」HPより。
- 8) もしかするとコミュニティという語「も」あててるのではなく、ネットワーク「だけ」でよいかもしれない。
- 9) 脚注1を参照のこと。空欄は現時点での資料であることから「不明」の部分である。
- 10) JCN（2016）より。
- 11) 浪江商工会議所HPにある「ふるさと未来創造会議について」によれば、次のような記載がある。
  - ・2012年 一般社団法人浪江青年会議所の事業として立上げ。
  - ・地域の担い手である我々青年世代が共にふるさとの未来を考え、共に行動していくことを目的としている。
  - ・構成メンバーは北双地域（浪江、双葉、大熊、葛尾の3町1村）の青年を基本とす

るが、限定するものではない。

- ・事務局を一般社団法人浪江青年会議所 地域室に置く。
- ・発起人の趣旨：地域住民が帰る帰らないの議論ではなく、ふるさとをどのような形で残すかを考え、地域の前にとして復興へ向けてのお互い何ができるかのきっかけづくり。「変わらない為が変わる。」

- 12) 恐らく3~4月の間に振り返りのミーティングがあったと思われるが資料、HPにも記載されておらず、今後の調査の課題といえる。
- 13) 表1にあるように2016年9月3日に「双葉郡未来会議 season4~離れても出来ること~」が開催されている。これは「事務局内クローズド」であったが、双葉郡未来会議(2016)によれば、高校生や大学生らが参加したことにより、今の双葉郡の課題認識は学生と大人がほぼ同じだったことが共有されたと記されている。

## 参考文献

富岡インサイド

<http://www.tomioka.jpn.org/>

東日本大震災支援全国ネットワーク、2016、『JCN Report』Vol.6

浪江青年会議所

[http://namiejc.org/?page\\_id=121](http://namiejc.org/?page_id=121)

双葉郡未来会議

<http://futabafuture.com/>

<https://twitter.com/futabameeting>

<https://www.facebook.com/futabafuturemeeting/>

——、2016、『双葉郡未来会議 season6』配布資料

松本行真、2013、『被災自治体における防災・防犯コミュニティ構築とローカルナレッジ形成に関する研究—2013年度科学研究費補助金(若手研究B)研究成果報告書』